

# 令和6年度 在宅医療・介護連携推進事業 事業活動に関するアンケート調査【在宅看取り部会委員 結果報告】

## I. 目的

- ・現状の事業活動に対する関係者の満足度及び課題と感じている点、要望する新たな活動等を把握する。
- ・調査結果を今後の事業活動へ適切に反映し、事業の見直しや改善につなげる。
- ・各専門職団体、推進委員、実施主体者双方が事業活動への理解を深め、更なる連携推進を図る。

## II. 対象者

- 在宅看取り部会ワーキンググループ①～④委員

## III. 回収状況

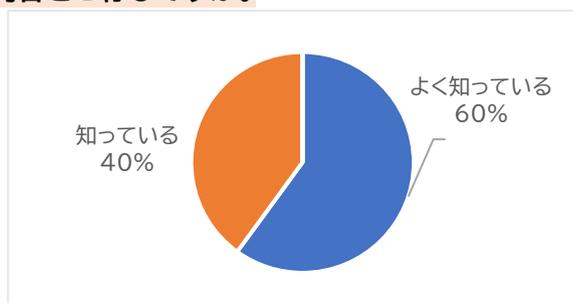
ワーキンググループ①～④委員 18名へアンケート回答依頼 うち、15名回答

回答率:83.3%

## IV. アンケート調査結果

- 中部地区医師会在宅ゆい丸センターの事業内容をご存じですか。

よく知っている	9	60%
知っている	6	40%
なんとなく知っている	0	0%
知らない	0	0%



### <結果・考察>

- ・アンケートに回答した15名の在宅看取り部会委員全員が、当センター事業内容を「よく知っている」「知っている」と回答した。

### <今後に向けて>

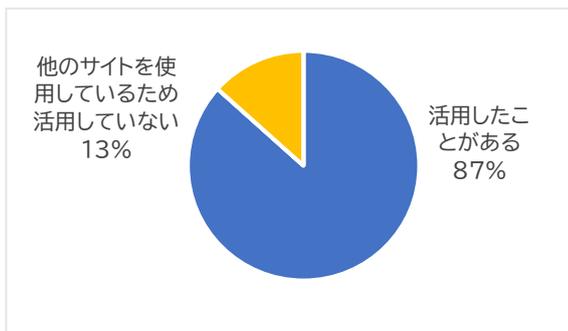
- ・当センターが運営する会議体の委員への事業活動周知を継続する。

- 地域の医療・介護支援の把握、提供

「医療・介護おたすけマップ」というサイト上で、地域の医療機関や介護事業所の情報提供を行っています。

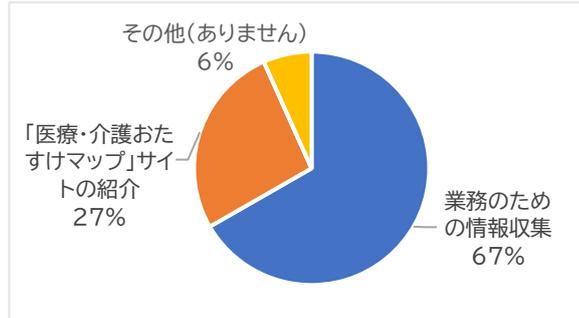
### 1. これまでに活用したことはありますか。

活用したことがある	13	87%
操作方法がわかりづらく活用していない	0	0%
知りたい情報が掲載されていないため活用していない	0	0%
他のサイトを使用しているため活用していない	2	13%
知らなかったため活用したことがない	0	0%



2. 設問1で「活用したことがある」と答えた方に伺います。どのように活用されたか教えてください。

業務のための情報収集	10	67%
「医療・介護おたすけマップ」サイトの紹介	4	27%
情報提供(一緒に検索を行った、検索結果を提示した等)	0	0%
その他(ありません)	1	6%



3. 医療・介護おたすけマップの内容で、改善・工夫が必要だと思う点があれば教えてください。

情報更新	最新の情報なのかどうか分かりづらいため、更新日が分かれば良いと思います。常に新しい情報を掲載するために事業所の協力を得て情報更新、新規情報アップが必要です。事業所、関係機関、住民へ周知し、使っていただく工夫が重要。認知度が上がり多くの人が使えば事業所協力も得やすい。
周知方法	案内する方々の説明の方法にもよるのと感じる場面がある。例えば、必要になったときにとマップを提供しても、使用しないかと思うし、場面場面を想定した方が役に立つのかと思った。 WAM-NETとの棲み分けが難しいのかも？
その他	わかりやすく、利用者のご家族に伝えたところ、わかりやすいとの、声がありました。

<結果・考察>

- ・13名87%の方が医療・介護おたすけマップを「活用した事がある」と回答した。また、医療・介護おたすけマップを知らない方はいなかった。
- ・改善・工夫点の設問では、情報更新、周知方法に関する意見が複数挙がった。

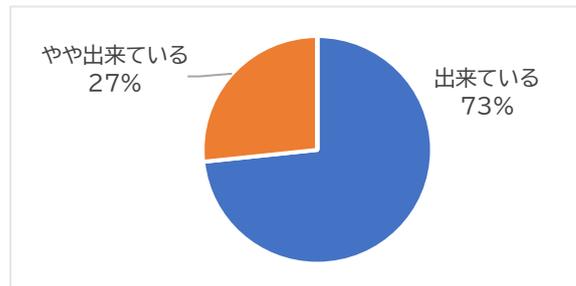
<今後に向けて>

- ・定期的な情報更新作業の継続。詳細情報の登録、更新についての協力依頼の継続。
- ・マップ案内時の説明方法の検討。

●在宅看取り部会の開催

4. 在宅看取り部会ワーキンググループでは、在宅看取りの推進に向けテーマに沿った協議を行えたと思いますか。またその理由を教えてください。

出来ている	11	73%
やや出来ている	4	27%
やや不十分	0	0%
不十分	0	0%



理由(一部抜粋)

出来ている	1施設でも多く看取りのできる場所を増やすに向けて、参加者それぞれの視点での意見交換ができていると感じる。
	過ごせる場所を増やすWGでは、在宅(自宅)や施設を含めてあらゆる場所での看取りについての議論を重ねていたと思います。自宅での看取りを増えつつありますし、今まで一番協議が少なかった施設での看取りについてを深く協議していったと思います。
	難しいテーマから具体的に課題を抽出している

	色んな経験や視点を出し合えたと思います。
	課題は多いですが、実現できるイメージしやすい、協議が出来ていると思います。
	実績ができたため
	ステップを構築し、段階的に看取りが行える環境整備が進められている実感があるため
	部会があることで、多職種で意見を出し合い、住み慣れた地域の中で『看取り』ができる場を増やす方法をじっくり考えることができたと思います。
	地域特性や社会資源を踏まえ、現状把握と課題の抽出に繋がっている。
	これまで研修会などのアウトプット中心であったが、実際に支援に回る実践的なものなので、非常に有効な支援策を打ち出していると考えます
やや出来ている	他のグループがどの様なことを行っているかが見えないため、全体としてどの様なものになるかが分かりにくいところがありました
	着実に目標に向かって協議が進んでいます。
	住民の声が反映されているか疑問があるから

##### 5. 在宅看取り部会ワーキンググループの内容や進行に対して、ご意見・ご感想・ご要望などはありますか。

	私自身が学びとなる機会となっています。
	当初は在宅看取り部会は何を進めていけばいいか分からなかったのですが、介護を進める中で看取りに関して具体性が出てきて掘り下げて継続ができる取り組みができつつあると思います。以前は単発での研修内容が多かったのですが、在宅看取り部会として会議体を設けたのは良かったと思います。現実味のある新しい取り組みができる気がします。
	在宅医療介護の委員メンバー看取りについての知見のある人たちとはいえども医師、専門職、行政など専門性や熟練度、業務範囲、営業範囲(地域性)が違うなか、企画運営をデザインし、音頭を取り、合議体をまとめるには非常に大変さがあると思います。毎年委員メンバーの交代などあるなか、毎年毎年一段ずつ階段を上がるように段階的に体系的に事業を推進していることを体感しています。事業や活動の成果効果は他者からは目に見えにくいですが、事業を通じて顔の見える関係だったり、知見の共有や相互作用だったり、それらが業務に活かされ地域に活かされ支援に活かされ、(見えないけど)住民の生活に繁栄されていることだと信じています。支援者が気の知れた仲なのか、全く知らない仲ではコミュニケーションの容易さと密度が全然違います。支援に影響に差が出ます。また、事業で抽出された(顕在的・潜在的・既存的)課題を各地域の普遍性と地域特性と自分の利用者の課題と比較したり、ほかのケアマネや職種から相談を受けた場合でも事業で知り得たことを伝えたりしています。PDCAとして考えた場合、地域のこと、多数の人が関わる事業は最低3年の期間が必要だと思います。委員メンバー、コーディネーターが入れ替わる中、県内最大規模の組織として難しさがある中で、全国でも発表出来るくらいの活動だと思っています。コーディネーターの皆さんの縁の下の方は専門職、行政、そして地域住民の生活の支えになっていると思います。お疲れ様です。私にも委員という機会を与えていただきありがとうございます。
	期間がかなり開くため、前回の議論内容を思い出せない所があります。個人的な意見となり大変難しい所になりますが、仕事後よりも仕事の方が参加しやすいです
	在宅での課題が多い部分ですがワーキンググループの内容進行共にこれから、関係者が実践していける内容となっていたと思います。
	ゆい丸センターの皆さんが熱心な頑張りによって、私を含めた委員からの無理難題を上手にまとめて準備してくれたおかげで、実行まで辿り着けたと思います。本当にお疲れ様でした。
	住民の声が反映されるようにするにはどうしたらよいか?も考えるべきだと思う
	始めは部会でのゴール設定が難しかったように思いますが、少しずつ課題・活動内容が具体的にすることで活発に意見交換もでき、良かったと思います。
	これまで参加したグループで一番実践的な内容であり、次のステップに入るわくわく感が高く、非常の充実したワーキンググループだと思います
	ワーキンググループ、事務局の準備する資料がすばらしく、会議を導いてくれます。委員の活発な意見交換、毎回目から鱗です。後はどうアウトプット実践するかの段階だと思います。

<結果・考察>

- ・アンケートに回答した在宅看取り部会ワーキンググループ①～④委員全員が、テーマに沿った協議が「出来ている」「やや出来ている」と回答した。特に、「出来ている」は70%以上であったことから、委員の部会に対する満足度が高い事が分かった。
- ・内容や進行に関する意見等から、在宅看取り部会の目的・目標は概ね達成できたと考えられる。テーマに沿った委員選定、テーマ・目標設定を行った上で部会を設置した事がこの結果に繋がったと考えられる。

<今後に向けて>

- ・次年度以降、テーマ別に協議し決定した仕組みを十分に実行する。
- ・前回会議内容を振り返る事ができる工夫を検討する。

6. 今後、本事業において在宅看取り部会のような会議体を設けたほうが良いテーマはありますか。

在宅看取り (在宅看取り 部会の継続)	今回の看取り部会で行っている継続したフォローアップの検討機会
	このテーマを更に深掘りしていくことが良い気がします
身寄りなし (在宅看取り 部会の継続)	各ワーキンググループの進捗状況、課題、タイムスケジュール等、全員で把握するための全体会があっても良いと思います。
	今回は在宅看取りの量の改善でしたが、次の段階としては、質の改善になるかと思えます。どういつ看取りを「質が高い」というのか、そこから話し合いが必要かもしれませんが。ACPにも関連するかもしれません。
認知症	引き続き身寄り問題は取り上げて欲しい
	身寄りの無い人の支援、全国でも沖縄でも、これくらいの規模で議論協議している合議体はあるのだろうか？何をもってゴールとするかまだわかりませんが、今取り組んでいる「身寄りの無い人」の支援の話し合いはパイオニア的なものになるんじゃないかと思っています。 社会は今後もっとこの課題を痛感していくでしょう。来年度、来年度以降、合議体の存在はさらに重要度を増していくと思うので合議体は継続した方がいいと思います。
その他	認知症予防、関わり方とか。 精神疾患や認知症に対する療養支援(家族支援含む)
	中部地区医師会だからこぞできる医療関係者向けの会議体があるとよい。 介護事業所との連携において医療側の視点は多いが介護側の視点は少なく感じている。介護側は医療に何を求めているのか、連携しづらいというバイアスはどこに要因があるのかなどが話し合う場があると助かる事業所も多いと思います。 沖縄県民働き盛りの健康を安定するためには・・・(本事業と直接関係ないですが) ・介護職医療職の働き手を増やすには ・救急医療を護るためには ・本気の介護予防をするには ・介護離職予防を普及するには ・1人暮らしに備えるためには ・高齢者の移動問題を解消するには ・(継続)看取り出来る施設を増やすには ・(継続)ACPを普及するには ・デイサービスを強くするには(沖縄はデイサービスが全国平均の3.5倍。地の利を活かした地域作り) ・高齢者就労を増やすには(全国平均前期高齢者就労最下位) ・男性(高齢者)が家事力をつけるには(男性高齢者家事参加最下位)

<結果・考察>

- ・在宅看取り部会の深掘り・ステップアップのため継続希望の意見が一番多かった。令和5年度～令和6年度 計画(P)、令和7年度以降 実行・評価・改善(D・C・A)としているが、その後のステップについて検討

の必要性があるか精査していきたい。

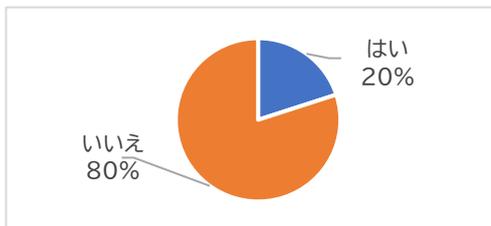
<今後に向けて>

- ・令和7年度以降 実行・評価・改善(D・C・A)を行いながら、在宅看取り部会の継続について検討する。
- ・その他、挙げたテーマについても行政とともに検討する。

●相談支援

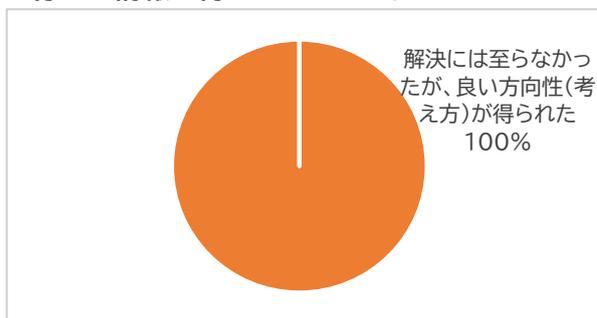
7. 当窓口へ相談したことはありますか。

はい	3	20%
いいえ	12	80%



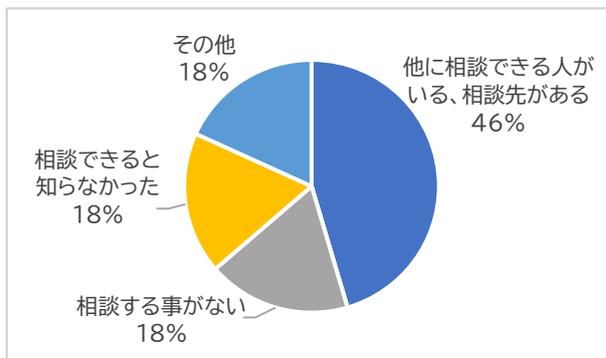
8. 設問7で「はい」と答えた方に伺います。相談した際に有益な情報が得られましたか。

解決に結びつくような情報が得られた	0	0%
解決には至らなかったが、良い方向性(考え方)が得られた	3	100%
有益な情報は得られなかった	0	0%



9. 設問7で「いいえ」と答えた方に伺います。相談したことがない理由について教えてください。

他に相談できる人がいる、相談先がある	5	45%
相談する時間がない	0	0%
相談する事がない	2	18%
相談できると知らなかった	2	18%
その他	2	18%



- ・相談する場面がない
- ・まず地域包括支援センターや行政に相談している

<結果・考察>

- ・相談した事があると回答した方は3名20%と少なかった。相談した全員が、「解決には至らなかったが、良い方向性(考え方)が得られた」と回答した。
- ・相談窓口の存在を知らなかった方が数名いた。

<今後に向けて>

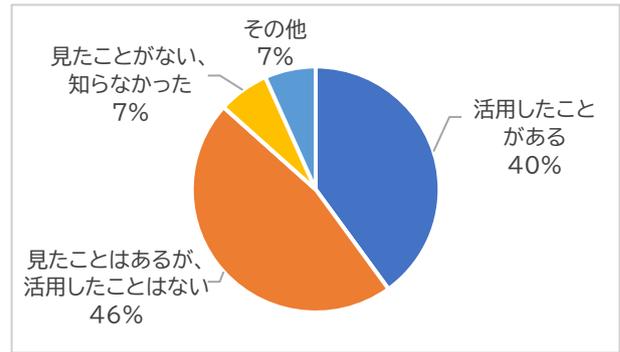
- ・相談窓口の対応可能な相談内容の例を明示する。(ホームページにてQ&A形式で掲載する等)

●地域住民向け普及啓発活動

10. 当センターで平成 30 年度に制作したエンディングノートを活用したことはありますか。

活用した事がある	6	40%
見た事はあるが、活用した事はない	7	47%
活用方法が分からない	0	0%
見た事がない、知らなかった	1	7%
その他	1	7%

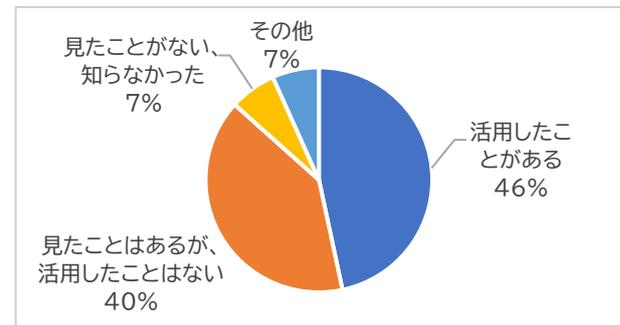
・住民には無いが専門職に対してツールを紹介したことがあります



11. 当センターで令和 2 年度に制作した ACP(人生会議)アニメーション動画や短編漫画を活用したことはありますか。

活用した事がある	7	47%
見た事はあるが、活用した事はない	6	40%
活用方法が分からない	0	0%
見た事がない、知らなかった	1	7%
その他	1	7%

・住民には無いが専門職に対してツールを紹介したことがあります



12. 今後、どのような取り組みが必要だと思いますか。(回答一部抜粋)

方法	今まで通りの普及活動と在宅医療・介護連携推進事業の研修時に紹介や、短編の動画漫画なら流してもいいと思う。 すでに行っているか分からないが、小学校や中学校、高校への宣伝や動画を流しにいいと思う。
	ACP は決まったことを伝える場ではなく、対話の場であることをもっと開催する側の人たちに知ってほしい 住民向けの PR が必要。(まだまだ認知度が低い)住民がどんな情報を求め、何を必要としているのかを知り、声を聞けるツールと発信が求められる。
内容	現在の取り組み継続が良いと考えます みんなのモチベーション、本気度を上げる
	在宅でどう支えることができるのか、行政、民間企業と、共に課題を検討し、関係者間の交流会を持っていきたいです。

<結果・考察>

- ・各種ツールいずれも、委員の90%弱が知っており、うち 40～47%が活用した事があると回答した。
- ・地域住民への今後の普及啓発活動に関しては、活動の継続、本事業の研修会や小・中・高校で動画を流す、現場のニーズを把握する事が重要、等の意見が挙がった。

<今後に向けて>

- ・各種普及啓発ツールの周知強化、普及啓発活動の継続。
- ・発信する情報および内容・方法について効果的な手段の検討。

●医療・介護関係者の情報共有支援

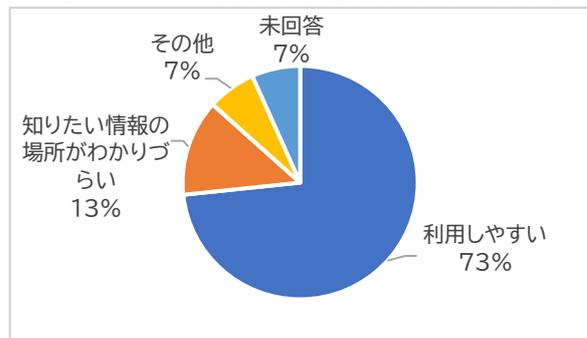
13. 当センターのホームページをご覧になったことはありますか。

はい	15	100%
いいえ	0	0%



14. 設問 13で「はい」と答えた方に伺います。当センターのホームページ使いやすさはいかがですか。

利用しやすい	11	73%
知りたい情報の場所がわかりづらい	2	12%
知りたい情報の掲載がなかった	0	0%
その他	1	7%
未回答	1	7%



・研修が告知されているページに行きにくい

<結果・考察>

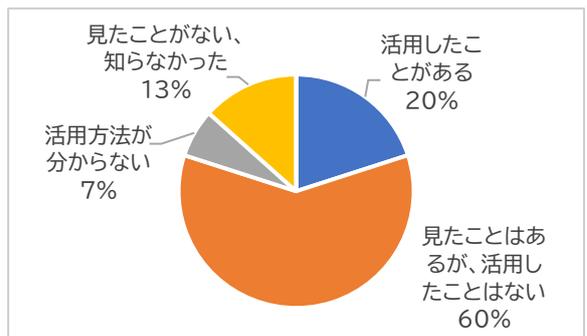
- ・15名 100%の方がホームページを見た事があり、うち 11 名 73%が「利用しやすい」と回答した。利用した事がある方の多くは概ね満足している事が分かった。
- ・「知りたい情報の場所がわかりづらい」と回答した方、その他も合わせると計3名 19%いた。

<今後に向けて>

- ・ホームページの利便性、レイアウト、見やすさに関する検討を行う。

15. 当センターでは平成 30 年度に入退院時の連携支援ツールとして入退院支援連携マナーブックを作成しました。活用したことがありますか。

活用した事がある	3	20%
見た事はあるが、活用した事はない	9	60%
活用方法が分からない	1	7%
見た事がない、知らなかった	2	13%



16. 設問 15で「活用したことがある」と答えた方に伺います。

とくに活用できた部分と改善が必要な部分について教えてください。（回答一部抜粋）

活用できた部分	9 ページ～ 病院機能の考え方は利用者さんへの説明に役立ちます。 ケアマネの人材育成場面で活用しています
---------	---

<結果・考察>

- ・マナーブックを「活用した事がある」と回答した方は17名 26%に留まったが、その方々のマナーブック活用の満足度は高かった。
- ・利用者への説明時や、ケアマネの人材育成時に活用しているとの声が挙がった。

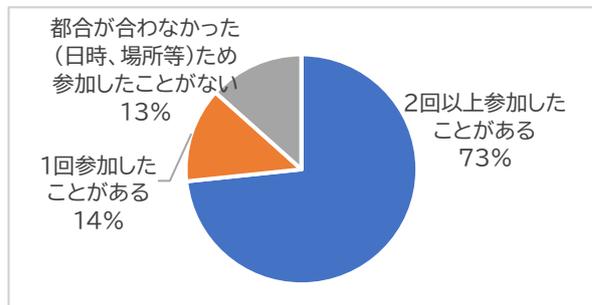
<今後に向けて>

・マナーブックの掲載情報、活用方法の紹介、周知強化。

●医療・介護関係者への研修

17. 当センターでは毎年、医療・介護連携に関する研修会を開催しています。これまでに参加したことはありませんか。

2回以上参加した事がある	11	73%
1回参加した事がある	2	13%
都合が合わなかった(日時、場所等)ため参加した事がない	2	13%



18. 研修会の内容に関するご提案やご要望、その他運営に関して改善点等がございましたら教えてください。(回答一部抜粋)

ワールドカフェのように悩み相談会の場がたくさんあると、地域全体でスキルアップしていけるのではと感じます。
施設経営者が参加する気になるような取り組み
在宅を支えている関係者の方々の声が直接きけるので、交流会を設けていけると良いと思います。
グループワークの苦手な人も多いため、ワークがあると参加を躊躇する人もいます。

<結果・考察>

- ・研修会に「1回」「2回以上」参加した事があると回答した方は、計 13 名 86%であった。アンケートに回答した方の 70%以上が2回以上参加した事があり、有益な研修会が開催できていると考えられる。
- ・ワールドカフェのような悩み相談の場、在宅を支えている関係者の方々の声を聞ける場があると良いとの意見、またグループワークを躊躇する人もいるとの声が挙がった。

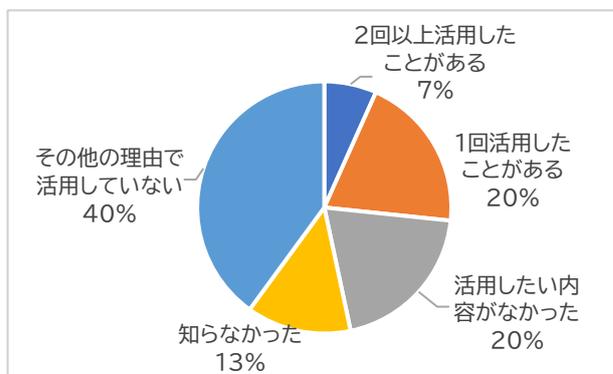
<今後に向けて>

・現場のニーズに合った、より多くの声を拾い上げられるような研修内容の検討を行う。

19. 当センターでは事業所内の研修等で活用していただけるよう、貸出 DVD 研修を実施しています。活用したことがありますか。

2回以上活用した事がある	1	7%
1回活用した事がある	3	20%
活用したい内容がなかった	3	20%
知らなかった	2	13%
その他の理由で活用していない	6	40%

・タイミング、機会がなく活用していない	5
・今後活用したい	1



<結果・考察>

- ・貸出 DVD 研修を「1回」「2回以上」活用した事があると回答した方は、計 4 名 27%であった。
- ・「知らなかった」と回答した方が 2 名 13%いたが、貸出 DVD 研修の案内対象外の事業所であった。

<今後に向けて>

- ・周知方法、範囲の検討。研修(DVD)内容の検討。

20. 貴会で、他専門職団体や他施設との意見交換会・研修会など、多職種連携の構築推進へ向けた取り組みを行っていますか。行っている取り組みがございましたら、その内容を教えてください。

施設管理者・相談員	職種を分けない研修会の開催 各職能団体等へ職員を派遣している
ケアマネジャー	居宅の特定事業者なので地域の事業所との共同研修が必須になっています。 今年度は、 ①社会福祉協議会とちゅいしいじい課と近隣の居宅支援事業所と研修開催 ②近隣の特定事業者、地域包括支援センター交えての事例研修会開催 他にも介護支援専門員協会主催での理学療法士協会との研修や県医師会との多職種連携名で数回はあります。今年度でも10数回はあると思います。 生活圏域(中学校エリア)他法人合同研修(年1、3回) 介護支援専門員宜野湾支部研修(年3、4回)
MSW・	沖縄県デザイン事業
訪問介護員	ヘルパー事業所(在宅支援)で常に多職種連携の現場に身を置いている。 沖縄市は重層と体制整備事業も本格始動するため、建築課(住い)学校教育委員会(子ども)、自治会、民生委員(地域)との連携も多くなってきた。
訪問看護師	全国介護事業者連盟に加入し、横の繋がりを広げる活動をしている。

<結果・考察>

- ・多くの委員の方が、それぞれの地域や必要な職種・事業所との意見交換会や勉強会等を実施されている事が分かった。多職種連携、顔の見える関係づくりの重要性・必要性を感じ取る事ができた。

<今後に向けて>

- ・他事業や他団体の活動(意見交換会、勉強会、研修会等)への参加、繋がり強化。

●その他ご意見・ご感想

- ・在宅ゆい丸センターの活動についてご提案等がありましたらご記入ください。(回答一部抜粋)

在宅を支えることは凄く大変な事ですね。それを先頭に立って事業運営されている事に感謝です。これからも継続して頂きたいと思います。
いつも他職種の意見を聞いてくださりありがとうございます
中部地区の在宅医療、介護連携推進事業を下支えして下さりありがとうございます。事業の企画、運営、実践、まとめ振り返り、そして我々の意見をきれいにまとめて下さり感謝です。どうぞ疲れ過ぎてバーンアウトしませんように。貴重な人材が安定し継続してくれるのが一番です。
コーディネーターが倒れたり離職したら地域に影響します(他医師会に比べ広範囲に対して人員が少ない気がします) 安定して継続して業務、事業が出来るような働き方、体制、環境作りが必要な一と感じています

<結果・考察>

- ・現活動への感謝の言葉が多く、当センター活動を有益と捉えられている方が多い事が分かった。

<今後に向けて>

- ・引き続き委員の皆さんの協力をいただきながら、本事業の安定とより良い推進に向けた活動を行う。